

Ⅱ みどり豊かな森林環境づくりの推進

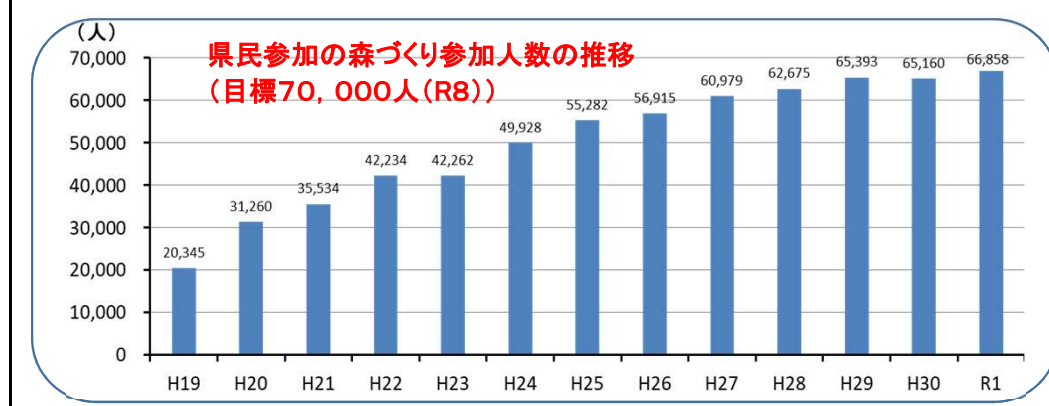
数値目標			
やまがた緑環境税を活用した森づくり活動などへの参加者数：7万人			
見直し時	目標	直近値	評価
H27年度	R8年度	R元年度	
60,979人	70,000人	66,858人	○ 概ね順調に進捗している
・森づくり活動への参加者は、平成28年度62,675人、平成29年度65,393人、平成30年度65,160人、令和元年度66,858人と、これまで順調に増加している。 ・令和2年度は、コロナ禍により4月から7月の森づくり活動が中止となり、参加者数は減少となる見込み。			

施策の展開方向	平成29年度以降の施策
(1) 県民参加の森づくりの推進	○計画的かつ広がりのある活動や、地域と連携して行う活動への支援を強化 ・地域の活性化を視野に入れた、地域住民や市町村、企業が連携して行う森づくり活動への支援を強化 ○県民参加の森づくりを支える体制を強化
(2) 自然環境保全対策の推進	○自然生態系の保全対策を強化 ・自然環境現況調査や希少野生生物の生息・生育状況調査を行い、生息・生育環境の保全を推進 ○野生動物の管理対策等を強化 ・大型野生動物の生息状況調査や野生動物管理対策の担い手の確保・育成

現行事業の主な成果(◇)・課題(◆)
(1) 県民参加の森づくりの推進 □みどり豊かな森林環境づくり推進事業 ◇「地域提案事業」では、地域住民や市町村等多様な主体による森づくり活動を支援。 ◇「市町村里山再生アクションプラン事業」では、市町村と地域が連携して行う森づくり活動を支援。 ◇市町村を窓口として、地域住民や団体との連携が進み計画的かつ広がりのある活動を実施。 ◆一方で、森づくり活動への新たな参画団体数は平成30年度12団体、令和元年度7団体、令和2年度12団体と横ばい。 □やまがた絆の森づくり推進事業 ◇平成31年4月以降、38企業34地区で活動するまでに森づくり活動が拡大。 ◆自ら企画して活動できる企業が限られ、活動が集中するため、各総合支庁の効率的なサポートが必要。 □森づくりサポート体制推進事業 ◇「みどり豊かな森林環境づくり推進事業」実施団体への活動支援を平成29年度は97件、平成30年度は103件、令和元年度は114件実施。 ◇指導者研修会や安全研修会、森づくり発表会を毎年開催し、森づくり活動を支援。 ◆活動が集中する時期は、実施団体への十分なサポートが困難。
(2) 自然環境保全対策の推進 □生物多様性戦略推進事業 ◇レッドデータリスト、レッドデータブックの改訂を実施、現状の絶滅が懸念される動植物を把握。 ◇自然環境調査やブナ・ナラ豊凶調査、山の実り調査等本県の自然環境の現状を把握。 ◆生物多様性への理解の促進、実効性のある絶滅危惧種の保全対策の促進。 □鳥獣管理推進事業 ◇鳥獣(ツキノワグマ、シカ等)の科学的手法による生息状況の把握を推進。 ◇シカの生息域拡大を踏まえた「シカ管理計画」を策定。 □野生鳥獣捕獲体制強化支援事業 ◇平成29年度まで、庄内、村山、置賜会場で共生の担い手育成の講習会の開催。平成30年度から、受講者の増加に対応するため、最上会場を加え4会場で講習会を実施。 □大型野生鳥獣等野生復帰事業 ◇平成29年度8件、平成30年度10件、令和元年度18件と大型鳥獣の野生復帰を促進。 ◆野生鳥獣の管理対策を担う人材が不足。

前回見直し(H29.3)後の情勢変化
【森林環境譲与税の創設】 ・森林環境譲与税が創設され、その用途は「森林の公益的機能に関する普及啓発、木材利用の促進その他の森林整備促進に関する施策」と幅広くあり、県の「やまがた緑環境税」と重複する可能性がある。 【委員の意見等】 (評価・検証委員会) ・みどり豊かな森林環境づくり推進事業において、現状に合せて各方面に適量ずつ配分されている。 ・二ホンジカ管理対策について、植生被害発生前から対策を講じることは重要。先進県の対策を活かした対策を望む。 (プロジェクトチーム) ・やまがた緑環境税と森林環境譲与税の用途の棲み分けについて、森林環境譲与税事業は事業実施主体が市町村であり、そもそもやまがた緑環境税事業(事業実施主体は県)と棲み分けられているので、引き続きやまがた緑環境税を活用していくべき。

今後の対応等(方向性)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> やまがた緑環境税と事業内容が重複しないよう、市町村と事業項目を検討。 </div> (1) 県民参加の森づくりの推進 ■みどり豊かな森林環境づくり推進事業 ○市町村を窓口とした地域住民と団体とが連携し、やまがた緑環境税を効果的に活用した事業を展開(継続) ○広がりのある森づくり活動に向けた新たな参画団体の掘起し(新規) ■やまがた絆の森づくり推進事業 ○地域活性化を視野に入れた企業の森づくり活動の支援を実施(継続) ・活動経験の少ない新規企業等を中心に支援を強化等。 ■森づくりサポート体制推進事業 ○県民参加の森づくりを支える体制を維持(継続) ・活動が集中する時期は、インタープリター協会等の人材バンクを有効活用。
(2) 自然環境保全対策の推進 ■生物多様性戦略推進事業 ■鳥獣管理推進事業 ■野生鳥獣捕獲体制強化支援事業 ■大型野生鳥獣等野生復帰事業 ○現在生息・生育する野生動物とその生息・生育環境を保全していくこととし、取組みを実施(継続)



○森林を県民みんなで守り育てる意識の醸成は未だ十分とは言えず、森づくり活動の支援や森林の重要性に関する普及啓発は継続する必要がある。